

聖書:使徒の働き20章1～12節

説教:パンを裂く

はじめに

前回から少し時間があいたので、ここまでのあらすじを簡単にふりかえっておきます。パウロが地中海沿岸の地域をまわりながら福音を語っていくと、救われる人たちが起こされ、町には次々と教会が建てられていきました。もちろん順調にいったわけではない。いつもユダヤ人たちから嫌がらせを受け、ときには迫害されて町にいられなくこともたびたびでした。19章にはその迫害の様子が詳しく書かれていました。エペソという町にはアルテミスと呼ばれる大きな神殿があり、参拝客が大勢来ていた。その参拝客目当てに神殿の模型を売っていたのが銀細工職人たちです。そこへパウロが「手で造った物は神ではない」と言ったことから、大騒ぎとなった。町中の人々を巻き込むような暴動が起きてしまう。1節で「騒ぎが収まると」とあるのはこのことです。

今日はその続きでパウロが三回目の伝道旅行を終えてエルサレムに帰ろうとした旅の途中で、ユテコというひとりの青年が窓から転落するという事故が起きてしまいます。ここにどのような神の恵みが隠されているのか、ともに見てまいります。

1 聖書の読み方

1) 繰り返されることば

みなさんは聖書を読むとき、どんなふうに読んでいるでしょうか。こんなことを言うと、とまどったかもしれません。普通の小説を読むように聖書を読んでだめなのか。」もちろん何か特殊な技術とか方法を学ばないといけないというものではありません。それでも知っておくと非常にべんりな方法がいくつかあるので、きょうはそのことからお話しします。難しいことはありません。二つあります。一つ目。「繰り返されていることばがあったらそこに注目しなさい。」簡単ですね。どうして繰り返されていることばなのか。みなさん、ほかの人に大事なことを伝えたいことを言うときどうしていますか。「明日十時に来てください。いいですよ。十時ですよ。」こんなふうに繰り返します。聖書も同じです。同じことばが何度も繰り返されていたら、大切なことを示す目印だと思ってよい。

2) 先に来的ことば

二つ目。「大切なことはできるだけ文章の先頭の方にもってくる。」これもみなさんがふだんしていることです。例えば火事だったら、まず「火事だ」と叫ぶでしょう。それから「台所が燃えているから消火器持って来て」というように説明する。聖書も同じです。大切なことは先の方に出てくる。もちろんまだありますが、とりあえずこの二つを頭に入れているだけでずいぶん違うと思います。

3) 励ます／慰める、パンを裂く

では今日の箇所ではいざいざどれが大切なことばになるのか。まず1, 2節を読みます。「騒ぎが収まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げ、マケドニアに向けて出発した。そして、その地方を通り、多くのことばをもって弟子たちを励まし、ギリシアに来て、そこで三か月を過ごした。」

ここで二回繰り返されていることばがあることに気がつきましたか。そう。「励まし」ということばです。これと同じことばがもう一箇所ある。12節。「人々は生き返った青年を連れて帰り、ひとかたならず慰められた。」日本語訳では気がつきにくいのですが、「慰められた」が同じことば。つまり最初の所で二回、最後のところでもう一回、同じことばがある。

それからもう一つ繰り返されていることばがあります。7節に「パンを裂くために集まった。」11節で「パンを裂いて食べた。」二回出てくる。私たちの目はどうしてもユテコ転落事件に向けられがちですが、励ますことと、パンを裂くということばにはさまれるようにして転落事件のことが書かれている。

2 転落事件

1) 青年ユテコ

これがどんなつながりがあるのかはまた後で見ることにして、その前に転落事件のことに触れておきます。9節。「ユテコという名の一人の青年が、窓のところに腰掛けていたが、パウロの話が長く続くので、ひどく眠気がさし、とうとう眠り込んで三階から下に落ちてしまった。抱き起こしてみると、もう死んでいた。」

窓に腰掛けながら居眠りをしてしまうのですから、ユテコはよほど疲れていたのか。そもそもそんなところに座るなんてちょっとどうなのか。いろいろ言いたくなる。でも今日見ることはそのことではない。パウロは教会の人たちを励ますために短い滞在でしたが時間の許すかぎり教会の人たちとお交わりしたくて夜中まで語っていました。その最中に事故が起きてしまいました。あつてはならないことが起きたのですから、たいへんなショックだったでしょう。

2) パウロ

そのときパウロはどうしたか。10、11節。「しかし、パウロは降りて行って彼の上に身をかがめ、抱きかかえて、「心配することはない。まだいのちがあります」と言った。そして、また上がって行ってパンを裂いて食べ、明け方まで長く語り合って、それから出発した。」

こんなときは普通なら気も動転して右往左往するものです。けれども、パウロは落ち着いてことに対処し、ユテコは生き返りました。さて、死んだ子どもが生き返るという話、どこかで聞いたことがなかったか。旧約聖書に二回出て来る。第一列王記にありますが、預言者エリヤが貧しい女性の息子を生き返らせました。第二列王記にはエリヤの後継者となったエリシャが女主人のひとり息子をやみがえらせたことが書いてある。パウロがしていることはそれとそっくりです。

他の箇所では、パウロが身につけていた手ぬぐいに触れただけで病気が癒やされたという話もありますので、パウロにはなにか超自然的な霊的な力が宿っていたのか。どう理解してよいか戸惑ってしまい、その結果パウロの信仰がすばらしかったで済ましてしまうところでしょう。でも本当にそうなのか。

3) 降りて、上る

そこで、さきほど取り上げた二つのことばが大事になってくる。励ますあるいは慰めるとも訳されていることばとパン裂き。この二つのことばです。でもこれだけでは、つながりが見えません。物事が行き詰まったらもう一度聖書に戻ります。パウロがどのように動いているか、そこがポイントです。10節をもう一度見ます。パウロはユテコが窓から落ちたと聞いて、「降りて行」きました。それからユテコの上に身をかがめ抱きかかえて「いのちがあります」と語った後の11節です。「そして、また上がって行って」とあります。パウロが上

の階にいたので、下に降りてまた上がって行った。当たり前話しにも見えますが、いつも言うように聖書は無駄なことは書かない。救いに関係があることしか書きません。

そこで思い出すのは、イエス・キリストのことです。この方は天の父なる神のそばにおられました。が、マリアを通して人となられて私たちのところへ降りてこられました。十字架の死とよみがえりを私たちに示してください、この方に永遠のいのちがあることを教えてくださいました。そして、先週も見たように弟子たちの前に四十日間現れてから天に上げられていきました。パウロの動きがまるでイエス・キリストがなさったことと重なるようなのです。

もちろんパウロはただの人に過ぎません。けれどもパウロを通して聖霊が働かれます。聖霊の働きの一つに、イエス・キリストを私たちに思い起こさせるということがありました。それがここで起きているのではないのでしょうか。

3 神の慰め

1) 聖霊はキリストの死とよみがえりを思い起こさせる

そうしますとどうなるか。ユテコが窓から落ちるようなことは教会にとっても衝撃で、当たり前ですがあつてはならないことでした。けれども、神はどうされたか。あつてはならない事故を通して、神の励まし、慰めを味わうことになる。どのようにしてか。パウロが下に降りて行き、そしてまた上って行く。その動きを通して神の御臨在がぼんやりとではあるけれど教えてくださいました。もちろんそのときすぐにわかったのではないでしょう。後からあの事故が起きた日のことを思い起こしていくうちに、ああ、あのとき神がともにおられたのだと、気がついていったのです。

ある日突然まさかというような事故や災難、それは病気であったり、怪我だったり、あるいは思いがけない中傷であったり、自分のミスによるトラブルであったり、いろいろ起きる。そんなときだれでもどうしようと頭を抱えるでしょう。目の前が真っ白になり、どうしたらよいかわからなくなる。

しかし、神はどのような方なのでしょう。上から降りて来てくださり、死んだようになっている私たちを抱きかかえ、「心配することはない。まだいのちがあります。」あなたは助かりますと言ってください。そのような方がおられる。聖霊はキ

リストの死とよみがえりを思い出させて下さって、
私たちを慰めてくださいます。

2) パンを裂くとき聖霊が働かれる

それだけではありません。パウロは何をしていたか。教会の人たちと一緒にパンを裂きました。私たちも毎月聖餐式で同じことをしています。今日の所から、聖餐式はただの儀式ではないことがわかります。聖餐式は、私たちを励まし、慰めるために主が備えてくださったものだった。パンを裂いてともに味わうことが、私たちの大きな力となるのだと教えてくれている。その実例を挙げましょう。

もう七年前になりますが、I兄のお母様が施設に入られていたとき、聖餐式をするために訪問させていただいたことがありました。身体が弱くなり、信仰を捨てたかのようなことさえ口にするのですと兄から聞いていましたので、初めてお会いするお母様にどのように声がけしたらよいか、本当に悩んだ。そのとき私が言ったのはこうでした。

「お母様はイエスさまのことを思い出しますか。」次の瞬間、お母様の口から出たことばに私は驚いた。「先生。私は毎日イエスさまを思い出しています。私の罪のために死んでくださったイエスさま。私は感謝してこのパンをいただきます。」このように神をほめたたえることばが止めどもなく口からあふれてきました。パンを裂くことによって与えられる神の力をまざまざと見る思いがしました。パンを裂くとき、聖霊が働かれる。そんな励ましを神は与えてくださっていたのです。この神とともに歩んでまいります。